

一再觸則粘石上雖星碎其殼亦膠結不脫。略○中千金翼方證類本草上品有鮑魚不載一名按說文鮑餧魚也史記秦始皇崩秘之棺載輶涼車中會暑臭載鮑魚以亂之者非阿波比千金翼方證類本草上品有石決明陶隱居云是鮑魚甲本草和名云和名阿波比爲允按有誤以鮑爲鮑者醫心方石決明條引崔禹食經云以鮑爲真或作鮑亦爲誤江鄰幾雜志云鮑魚又讀如鮑非亂臭者也五雜組云鮑音撲入聲今人讀作鮑非也香祖筆記云鮑魚產青萊海上今京師以此物餽遺率作鮑魚則訛爲秦始輶轎中物可笑皇國俗有作鮑者略○中輔仁既訓石決明爲阿波比又以有鮑或作鮑者誤認本草鮑魚爲鮑魚亦訓爲阿波比源君襲其誤混鮑鮑爲一遂言鮑魚一名鮑魚其實本草鮑魚鮑魚迥別無有所引文

〔類聚名義抄肉〕石決明 アハビ

〔同十魚〕鮑 アハビ一音伏

鮑 アハビ俗正音抱

〔伊呂波字類抄安動物〕鮑 アハビ鮑俗同

〔下學集氣形〕鮑 アハビ或成海具或成石決明

〔日本釋名介〕鮑 アハビ あはでひかると云事也、あはびは其から片貝にてふたなしからひかるもの也、故に名づく、一説に、あはでひらく也、ふたなき故、あはでつねにひらけり、

〔物類稱呼二動物〕鮑魚あはび 上總にてかいつけと云、是は鮑の蓋なくして身は貝につきて有物なれば貝つけといふか、貝つきなるべし、江戸にて一名なまがい共云、又あがりたる鮑をばすい。けんと云、泉州境にて此貝の壳をあま貝と云、これは海士のとる貝なれば海士貝と云か、

〔本朝食鑑十〕鮑 アハビ音鮑本邦讀音伏訓阿和比○中略

集解、凡介中之長自古美賞之、形圓而長扁、一片無對、殼雖扁肉尙圓、大者徑尺餘、小者方二三寸、其最小者曰登古不志、外殼甚粗、藻苔依附、內有五色光耀、器工碎之以飾、漆工最用之、背側有孔七孔九孔、或十孔亦有皆如穿成者、其肉色有青赤二色、青爲雄赤爲雌、雌味優於雄、肉味甘脆美於蛤蠣、肉之四